

サポートぎふ

125号

令和6年6月21日

発 行

岐阜県知的障害者支援協会
広 報 委 員 会

卷 頭 言



岐阜県知的障害者支援協会 会長 平下 博文

施設・事業所の皆さんには、平素より当支援協会の各事業にご協力いただいており、厚く御礼申し上げます。

昨年5月、コロナ禍4年が経ち感染法上の位置づけが5類へと変更があり、私達は、コロナ禍前の状態に戻ろうとしましたが、何度かの非常事態宣言、施設のクラスター発生等、初めて経験した事態は、施設の暮らしへの影響が大きく、以前の状態に戻るには容易ではない現実でした。そんな折に発生した、生活関連物価の高騰（電気・ガス・食料品等）による支出額の増大は施設の運営・経営、施設の暮らしのものに影響を来すことになりました。とりわけ、小規模、単体の施設・事業所はその影響は大きく、就労系事業所では生産物の原材料費の高騰も影響し、事業の継続も危ぶまれる状況もありました。これらについて、この窮状を国・県に対して要望し、「コロナ対策補助金」と共に「物価高騰対策助成金」として一定の助成があったところです。

加えて、こうした社会情勢が変化する中、政策として公民あげての賃上げの動静となり、最低賃金の引上げがこの間実施され、大企業を中心に賃上げが実施されようとしています。民間企業との賃金格差の是正は、福祉施設従事者の「待遇改善」として実施されてきてはいますが、承知のように福祉事業は公定価格であり、賃上げするにも、原資である「報酬」が増加しなければ賃上げは容易にはできません。益々賃金格差が広がり、言われているような福祉人材の流出につながりかねません。公定価格である報酬を一律にあげていただくよう国に対し要望しました。

また、令和5年度は、障害者総合支援法施行後3年の見直しがなされ、それに基づき国の障がい福祉計画も見直され、国の指針が示されました。新計画年度は、今年令和6年4月からとなっており、各自治体はそれを具体化し施策を推し進めるため、各県の計画（岐阜県の場合は「障がい者総合支援プラン」）策定が進んでいます。それに連動して、これも3年ごとに見直される報酬改定が示され、物価高騰分や従事者の待遇改善分を含んだ報酬アップとしていますが、新たに取り込まれた新事業を遂行しなければ実現できない内容となっています。私達は、この1年、まずはコロナ前の状態に施設を戻すことを念頭に活動したのですが、この4年の社会の変容はそれを容易とはしてくれない現実があります。そんな中で、制度が見直され、新事業が提示されましたが、私達の主張や要望が通っている内容かどうかはしっか

り評価する必要があります。制度・事業が示されれば、これを遂行していかざるを得ない事業体であることも現実です。

しかしながら、長引くコロナ禍を経験し、今まで、自然災害を目の当たりにした能登地震被災障害者（施設）の状況など、現在社会の障害者の置かれている現状を鑑みるに、今こそ先人たちに依って築かれてきた、「施設」は必要であり、「施設が存在する」意味が正しく理解され評価されなければならない時であると強く思うところです。

令和6年度 一般社団法人 岐阜県知的障害者支援協会 役員体制

会長	平下 博文	ル・リアン	施設長
副会長	後藤 悅子	デイセンターあゆみの家	所長
◎ 副会長	林 信宏	伊自良苑	施設長
◎ 副会長	浅井 長可	白竹の里	施設長
種別分科会			
障害児通所支援	安原 善光	岐阜市立恵光学園	園長
◎ 障害児入所支援	田中 雪子	山ゆり学園	施設長
障害者支援施設	藤田 和俊	緑の丘	園長
日中活動支援	後藤 悅子	デイセンターあゆみの家	所長
就労継続支援B型	岡本 貴之	ワークス伊自良	施設長
就労継続支援A型	伊佐地 裕	恵那たんばば福祉工場	工場長
共同生活援助	村井 稔	どんぐり村福祉工場	工場長
居宅介護等	伊藤 佐知子	おおぞら	所長
相談支援事業等	浅岡 直之	ひだ障害者総合支援センター、ぶりずむ	センター長
専門委員会			
研修委員会	林 信宏	伊自良苑	施設長
広報委員会	井上 基久	美谷の風	管理者
◎ 調査研究委員会	永友 規美	あしたの会自然の家	施設長
◎ 行事委員会	古田 裕彦	ひまわりの丘第二学園	園長
事務主任者会	各務 正和	飛翔の里ワークセンター	所長
◎ 支援主任者会	近藤 和也	羽島学園	サービス管理責任者
◎ 人権倫理委員会	後藤 悅子	デイセンターあゆみの家	所長
会計監査	山口 清	東濃ワークキャンパス	園長
会計監査	吉田 信樹	社会福祉法人 万灯会	統括施設長
顧問	小板 孫次	社会福祉法人 たんばば福祉会	理事長
事務局長	浅井 長可	白竹の里	施設長
事務局	方野 由起子		
事務局	浅野 由美子		

◎は新役員

支援物資を届けました

【令和6年能登半島地震】

年明けて早々能登半島で震災があり、多くの方が被災され無慈悲にもたくさんの方がお亡くなりになりました。障がい者施設でも大きな被害が発生し、障がいを持った方々は避難所での生活が難しいため、壊れた施設での生活を余儀なくされていました。

早々に各県協会からの支援が開始され、当県協会としては生活に必要な物資が不足しているとの情報を受け、1月11日にシェア金沢（佛子園）へ支援物資を搬入しました。車輛はディセンターあゆみの家様にお借りしました。

障がいを持った方々を支える職員自身が被災者であるため、施設が機能しない状態にあります。そこで被災施設に職員を派遣する動きも組織だって進めました。

現在も、十分とは言えませんが、職員の派遣を続けています。障害者福祉の世界も深刻な職員不足な状況にあり、自分たちの施設の日常を回すだけで精一杯なため、なかなか応援職員を派遣出来ない現実があります。同じ目的をもった者として、何とか力になりたいところですが、現実的に難しい状況です。このような有事の際に、今の障がい者福祉の弱点が顕著に表れていると感じます。そんな厳しい状況の中、派遣を継続している法人もあり、大変感謝をしています。



前日に積込み準備



日用品（消耗品）を搬入



までの多くの支援物資が届けられていた



義援金ありがとうございます

1,638,720円

当協会で呼びかけをしたところ、多くの施設及び保護者会等から義援金をいただきました。この義援金は、公益財団法人日本知的障害者福祉協会へ振込をさせていただきました。大変ありがとうございました。

県委託事業 無事終了しました 【施設相互支援】

新型コロナウイルス感染症流行に伴い令和2年より「高齢者・障がい者入所施設における新型コロナウイルス感染症発症時の施設間相互支援に係る調整等委託業務」が岐阜県から当協会に委託されていましたが、第5類に分類されたこともあり、令和5年度で終了しました。

この委託業務は入所施設等で新型コロナウイルス感染症が発生した場合に、入所者への福祉サービス継続提供に支障が生じないよう、感染発生施設の関連施設への応援職員の派遣や、感染発生施設の併設等サービスの利用者受入れ、感染発生施設に対する食事提供等の支援等を行う施設間相互支援体制を構築し、実際に応援が必要になった場合の調整を行うというものでした。

この事業において、まずは相互支援に協力できる施設名簿の作成をし、多くの施設に参加登録をしていただきました。日常の対応としては、会長が事務局にて業務を行い、情報の収集に努めるとともに、役員会において毎月1回の会議を開催し、県下の感染状況の情報共有、感染防止対策の状況や応援要請発動の再確認をしました。

また、必要に応じて県障害福祉課との連絡調整も行い、そのほかにもPPE及び抗原検査キットを備蓄し、クラスター発生の緊急時にも対応できるように準備しました。

コロナ禍では各法人・施設からの感染状況の報告が多く入ってきました。クラスターを経験した入所施設がほとんどでしたが、実際に応援要請がかかることはなく、各法人・施設内で対応が出来たようです。感染の経験を生かしながら努力して対応した結果だと思います。



備蓄品

未だに感染症によるクラスター感染の報告がありますが、各事業所で対応が出来たことや協会として協力体制を築けたことは、危機管理の面で大きな安心と自信になりました。これを経験として今後の活動に繋げていきたいと思います。

施設等長・管理者会

年に2回～3回程度施設長・管理者が集まって協会の活動や障害者福祉の情勢等の情報交換や意見の集約を行っています。

去る令和5年1月30日に行われた施設長会においては、令和6年度が報酬改定の年にあたることから、県障害福祉課から現時点での情勢や行政説明をおこなっていました。その後の会議では、報酬改定に対する思いや不安がある中、各種別それぞれ事情が違うこともあります、会議が長引いてしまうということがありました。また、能登半島地震についての現況報告や応援派遣の情報収集・調整も行われました。

参加報告 活動

第21回岐阜県パラスポーツ大会秋大会

～ドリームスポーツ大会～

開催日：令和5年11月19日

会場：岐阜メモリアルセンター

コロナ禍で開催できなかった時期もありましたが、行動の制限が無くなりコロナ禍前の形で開催する事ができました。

開会式ではごちゃまぜアートの会によるパフォーマンスを披露され、会場が一体となりました。会場の外ではバザーが開催されスポーツだけではなく飲食やネイルアートなど楽しむ事ができました。

競技では、参加者全員がスポーツを楽しみました。大会の趣旨でもある日ごろの活動を通じて体得した各自の達成度を発表し合う場となり、互いに競い合っている姿があり、スポーツレクリエーションを通じて笑いが起き、交流が深まり、楽しい一日となりました。



スポーツ、レクレーションを通して、心身の発達、健康の維持増進、社会参加と社会的自立と促進向上、を目指して選手全員が日ごろの練習の成果を発揮し競い合うことができました。自らを高め強く生き抜く気力を培う機会にもなり、社会参加の一歩となつたのではないかでしょうか。

開催報告 研修

障害者の権利擁護・人権倫理を考える研修会

開催日：令和 6 年 2 月 21 日（水）

令和 5 年度 障害者の権利擁護・人権倫理を考える研修会として、当協会と(一社)岐阜県知的障害児者生活サポート協会との合同開催により研修会を行いました。

数年前からは、支援協会の人権倫理委員会も共催し、国主催の虐待防止研修とは別に、私達自身でこのテーマを考えていこうと言う趣旨で毎年行っています。

今回は、障害者権利条約を批准し国内法も整備されていますが、果たして現実はどうでしょうか？ということをテーマに、現在の「障害者の権利擁護」をどう捉え、どうあるべきかを問い合わせ、考える研修会となりました。

講演では、日本福祉大学社会福祉学部准教授 藤井涉氏に「歴史から見た障害者を取り巻く権利擁護・人権倫理を考える」というお話をいただき、シンポジウムでは栃木女子大学人間関係学部教授 手嶋雅史氏をコーディネーターにお招きし、現場からの報告として支援施設部会副部会長青山泰博氏、生産活動・就労支援部会長岡本貴之氏の発表をいただきました。助言者として藤井涉氏にも参加いただき、それぞれの立場からの問題提起をしていただきました。

「福祉」が幸せを求めるとするなら、「福祉」を実行する為の制度はそれに近づいていかなければならないと思います。今は変えられなくても、日々暮らす中で、私達の目的である福祉=幸せに向けて新しい「標準」=制度を作り出していくことは出来ます。それが私達の「専門性」と言えるのではないかでしょうか。「今週の月曜日と先週の月曜日が同じだからこそ安心した日常がある」（手嶋先生の講演から）私達の求める共通した願いはここにあるのではないかと思います。

第61回 東海地区知的障害関係施設長等研究協議会

開催日：令和 5 年 9 月 13 日（水）～14 日（木）

東海地区（愛知、静岡、三重、岐阜）の施設長・管理者が、ホテルグランヴェール岐山にて研修を行いました。

テーマは「障がい福祉サービスの未来」～これから施設・事業所の在り方を考える～です。対面式で行う久しぶりの大会になり、各県から 160 名を超える施設長・管理者が集いました。

1 日目は、（公財）日本知的障害者福祉協会事務局長 末吉孝徳氏による中央情勢報告や、栃木女子大学人間関係学部教授 手嶋雅史氏の基調講演をいただき、夜には情報交換会を行いそれぞれの現状や課題を共有しました。

2 日目にはシンポジウムとして、各県から各種別の代表者に意見を述べてもらい、議論を深めました。

今回の研究協議会は岐阜県がホストということで、西濃地区の施設長・管理者の方々が中心になって企画・運営を行いました。計画の段階からテーマに沿った議論を深め、また運営方法を話し合い、とても良い絆を作ることができました。



参加報告 研修

第60回 東海地区知的障害関係施設職員研究協議会の報告

開催日：令和5年10月5日（木）～6日（金）

協議会は、令和5年10月5日・6日に静岡県浜松市（グランドホテル浜松）で開かれました。

大会テーマは「フォースマイル 原点回帰私たちがなすべき支援とは」で240名の参加者がありました。

開会式に続き、中央情勢報告は日本知的障害者福祉協会井上博会長が関連制度の変化など障害福祉を取り巻く環境、協会の活動内容を紹介され、施設職員による障害者虐待がなくならない現状を踏まえ、協会として障害者の意思決定支援などに力を入れていると報告がありました。

午後からは「児童発達支援部会」「障害者支援施設部会」など6つの分科会に分かれ、施設ごとの実践事例を報告されました。第3分科会では岐阜県、美谷の風サービス管理責任者、矢野美千代氏による「私たちがなすべき支援とは」の発表がありました。笑顔で暮らすことを第一に考え、様々な作業を提供し、1日を自主的に生活すること、認め励まされることで喜びにつなげていること、地域交流を大切にして環境整備やスポーツイベントに積極的に参加して地域貢献をしている様子を、支援の工夫を交えながら話されました。



第11回障害者支援施設部会全国大会九州地区沖縄大会の報告

開催日：令和6年1月18日（木）～19日（金）

第11回障害者支援施設部会全国大会九州地区沖縄大会が、令和6年1月18日（木）～19日（金）の2日間にわたり、沖縄県那覇市内の「パシフィックホテル沖縄」で、300名を超える参加者を迎えて開催されました。



大会テーマは、『かたやびら（しっかり話し合おう）』～“どうありたいか”を語ると、“どうするか”が見えてくる～でした。

今回の大会は、中央情勢報告や基調講演、分科会そして大会資料も無い今までに無いスタイルで、とにかくテーマの如く2日間話しつぶなしの大会となりました。

オープニングで、沖縄県の島粒希会長から『自然災害もそうですが世の中変わって来ている。しかし障害福祉、入所施設は変わって来たか？障がいは罪で入所は罰か？映画「月」も上映されている。皆さん頑張っているが、今から生まれてくる障がいの子たちに安心して生きて来てねって言えるか？ひとりひとりが語り合って欲しい。他のメンバーと答えを探して行く。今日は入所施設が変わった日になるでしょう』と、この大会にかける意気込みを感じる挨拶をされました。

今回の沖縄大会は、ある意味で対面研修のあるべき姿を導き『かたやびら（しっかり話し合おう）』という沖縄弁が示すとおりの素晴らしい大会となったと思います。従来型の話を聞く研修から、話をする研修に変わることで、参加者のモチベーションも上がり、参加後の達成感もあったと思います。

全体総会 及び 映画上映会

ご案内

ここ数年、コロナ禍により開催することが出来なかった全体総会ですが、昨年度から再開をしています。この全体総会とは、会員の皆様に当協会の活動の報告と1年の計画を伝える場です。コロナ禍以前のように1日を通しての会は出来ませんが、昨年度は総会後に講演会を行うことができました。今年度は映画上映会を行います。

日 時	令和6年6月21日（金）13:00～
場 所	不二羽島文化センター みのぎくホール
スケジュール	12:30 受付 13:00 全体総会開会 会長あいさつ 協会賞授与式 来賓祝辞 報告議事 閉会 15:00 映画上映会 開映 17:10 監督挨拶 終映



映画上映について

作品「わたしのかあさん ~天使の詩~」

監 督 山田火砂子
主な出演者 寺島しのぶ 常盤貴子 高島玲子 船越英一郎 他多数
公開日 令和6年3月30日

92歳の映画監督、山田火砂子氏による、自身最高傑作と言われる映画です。知的障がいを持った母親を寺島しのぶさんが、その子どもを常盤貴子さんが演じます。

今年公開されたばかりの映画です。ご覧になった方の感想をお待ちしています。

※映画上映は（一社）岐阜県知的障害児者生活サポート協会の協賛で行われます。

編集後記

大西前副会長が急逝されてから半年。政策委員として奔走する姿が懐かしく思い出されます。常に障がい者福祉、そして協会のことを考えている方でした。私たちもその行動力を範にし、活動をしていきたいと思います。A